

東奥日報

2025年(令和7年)7月17日(木曜日) (25)

航空宇宙研究拠点に

八工大「センター」新設

八戸市の八戸工業大学(船崎健一学長)は16日、航空宇宙関連研究の拠点として、新たに「H. I. T. 航空宇宙研究センター」を設立したことを発表した。センター長に船崎学長が就任し、研究には同大教員、学生のほか、東北大学などの教授も参加予定。同日、八工大で開かれた設立記念講演会で船崎学長は「宇宙航空研究開発機構(JAXA)が必要とするものづくりへの協力など、学生や地域がわくわくする研究に取り組んでいきたい」と意欲を語った。(正井晶子)

学生、地域、企業交流の場

設立は10日付。同大の既存施設を活用し、航空宇宙に関する教育や、企業・研究機関と連携した研究開発に取り組む。教育面では同大学生だけではなく、航空宇宙に興味のある社会人、中高生向けのプログラムも用意し、大学の枠を超えた交流の場を目指す。

船崎学長は同センターの役割について、「航空宇宙は学問的、産業的、さらには防衛技術の面でも極めて重要な研究分野」と説明。小型探査機「はやぶさ」初号機の生みの親である川口淳一郎さんや、小型ビジネスジェット機「ホンダジェット」を開発した藤野道格さん(いずれも弘前高卒)

らを紹介し、「北東北は日本の航空宇宙の発展に貢献してきた。今後も航空宇宙分野を支える人材を育成すべく、本学が一つの拠点となれば」と語った。

特別講演では、東北大学大学院情報科学研究科・山本悟教授(数値流体力学)と、東京理科大学工学部・航空宇宙産業の拠点にでき

山本誠嘱託教授(流体力学)も登壇し、ジェットエンジンの仕組みなどについて紹介した。

講演会後の取材に船崎学長は「まずは研究環境を整え、技術を向上させていくことが第一。将来的な目標の一つとして、八戸圏域を

るくらい機運を高めていきたい」と話した。

役割について、「航空宇宙は学問的、産業的、さらには防衛技術の面でも極めて重要な研究分野」と説明。小型探査機「はやぶさ」初号機の生みの親である川口淳一郎さんや、小型ビジネスジェット機「ホンダジェット」を開発した藤野道格さん(いずれも弘前高卒)



航空宇宙研究センターの設立目的について語る船崎学長=16日、八戸工業大学

※「この画像は該当ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」